

やすいぞっけんきねんかん ぼしゅう
安井息軒記念館夏休み作品募集

夏休みも間近 

さあ君も、わたしにチャレンジしてみないかな!?

☆ 絵画の部

☆ 似顔絵の部

☆ 自由研究の部

☆ 書道の部

あなたの得意な分野でどうぞ…



～ 募 集 要 項 ～

- 1 募集期間 7月22日(土)～8月31日(木)必着
- 2 提出先・送付先 宮崎市安井息軒記念館
〒889-1605 宮崎市清武町加納甲3378-1
Tel 0985-84-0234 Fax 0985-84-2634
e-mail sokken.yasui@pic.bbiq.jp
- 3 表彰 各部門 特選、金賞、銀賞、銅賞
- 4 表彰式 10月15日(日) 10:00～15:00
宮崎市安井息軒記念館にて
- 5 作品展示 9月23日(土、祝日)～11月5日(日) 記念館にて
- 6 作品 返却しません。上位入賞作品は、記念館HPや息軒だより等に掲載する場合があります。
- 7 主催 特定非営利活動法人 安井息軒顕彰会 後援:宮崎市教育委員会
- 8 休館情報 7月11日(月)～7月31日(月)まで、空調工事のため休館
記念館への立入りはできません。旧宅への立入りは可能です。
またお問合せやご連絡も可能です。



安井息軒絵画展

安井息軒旧宅や記念館を
自由に描きましょう!!



- 1 対象 未就学児～高齢者までどなたでも
- 2 内容例 安井息軒旧宅、息軒廟、安井息軒記念館、庭園等
- 3 用紙 四つ切画用紙
- 4 画材 自由(油彩、水彩、クレヨン、クレパス等)
※ 必ず色を塗ること
- 5 提出法 裏面に住所、氏名、連絡先、(学校名、学年等)を書いて提出

自由研究作品展

安井息軒について調べて、調べた
ことをまとめましょう!!

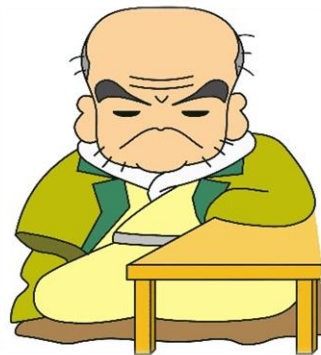


- 1 対象 小学3年生～中学生
- 2 内容例 子どもの頃の息軒先生、清武の頃の息軒先生、息軒先生が生まれた家(旧宅)、記念館のヒミツ、息軒先生のすごさ、息軒先生の弟子たちなど
- 3 用紙 A3用紙2枚以内
- 4 提出法 表面に学校名、学年、氏名を記入してまとめて提出

にがおえてん 息軒先生似顔絵展

下記の似顔絵や肖像画も参考にして、息軒先生の似顔絵を楽しくかきましょう!! (できれば来館して...)

- 1 対象 未就学児 ~ 小学生
- 2 用紙 八ツ切画用紙
- 3 画材 自由
油彩、水彩、クレヨン、クレパス...
- 4 提出法
裏面に住所、氏名、連絡先、(学校・園名、学年)を明記して提出



安井息軒顕彰書道展



- 1 対象 未就学児 ~ 高齢者までどなたでも
- 2 作品 半紙(半紙縦 33cm×横 24cm)
- 3 点数 一人一点
- 4 字句 学年等で指定した下記の字句
縦書き、書体は自由
- 5 提出法 下記手本にならってください

未就学児

小学1・2年

小学3・4年

小学5・6年

中学生

高校生・一般

○ さよ ○ ○ ○ ○ ○ 園

○ ○ 小 けさ いん ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 小 ぶし 草の ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 小 仲安 平井 ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 中 日北 抄潜 ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 高 餘江 情山 ○ ○ ○ ○ ○

【注】

- ・未就学児は、指導者が下部に園名を横書きで記入してください。
- ・小・中学生は名前の上に学校名・学年のみ記入してください。
- ・高校生は名前の上に学校名のみ記入してください。(学年は不要)
- ・名前は一般を含めて、雅号ではなく氏名をご記入ください。

雅号ではなく氏名を記入

題字の意味

- さよ：清武町岡出身の安井息軒の奥さん、川添佐代(さよ)のこと。賢くやさしく美しい女性で、森鷗外は佐代と息軒のことを小説『安井夫人』に描きました。
- さんけい：息軒が40歳の時に江戸に開いた塾の名前。「一日の計は朝(あした)にあり、一年の計は春にあり、一生の計は少壮の時にあり」の3つの計から「三計塾」と命名しました。
- しのぶ草：安井父子は旅好きで、漢詩や俳句を詠みながら旅をしました。『志濃武草(しのぶぐさ)』は息軒が21歳の時、初めて一人で伊東家と安井家のルーツ、西都の都於郡(とのごおり)方面に旅に出た時の紀行集です。
- 安井仲平：息軒の幼名は順作、諱(いみな、本名)は衝、号は半九陳人、清流、南陽、息軒...、息軒はふだん字(あざな)で仲平(ちゅうへい)と呼ばれていました。
- 北潜日抄：迎えた幕末から明治、家族の身の危険を感じた息軒は、弟子たちの勧めに応じて領家村(今の埼玉県川口市東領家)に疎開。その間の日誌に、江戸よりも北に潜んだという意味で『北潜日抄(ほくせんにつしょう)』と名づけました。
- 江山餘情：息軒最後の紀行集で、息軒が60歳の時、湯治のため栃木県川俣温泉への旅に出てその時の紀行集に『江山餘情(こうざんよじょう)』と命名しました。しかし暴風雨にはばまれ、日光方面に進路変更をしたようです。